

やさしい、風

編集：ボランティアコーディネーター 川井 恵子 協力：キートスボランティアさん達

特養ユニット 非常食炊き出し訓練

これは、災害時に水道・電気・ガスがストップした状況を想定して、ユニットで食事準備を行って提供するための訓練です。味付きのアルファ化米（ごはん・粥）を使用します。この日は、ワカメご飯の提供でしたが、その他に五目ご飯、ひじきご飯、キノコご飯があります。

副食のおかずはいつものとおり厨房で準備しました。

卓上カセットコンロで湯を沸かし、アルファ化米の入った袋にお湯を入れ、15分待ちます。もし水しか用意できない状況の時は、60分待つことで可能です。

お茶碗には、ラップをかけて提供します。（水道がストップして、食器洗いが出来ない想定の為）



ピカピカのやかん



お茶碗にラップをかけて



15分後

お湯か水を袋内側の注水線（170ml）まで注いで、すぐによく混ぜてください。

③袋のチャックを閉じてお待ちください。よく混ぜ、召しあがってください。

熱湯の場合 → 15分
水の場合 → 60分

チャック



今回はワカメご飯



良くかき混ぜて

災害用に色々な便利な品が考えられていますが、卓上用のガスコンロを使ったことのない人もあり、実際に行き戸惑わないように慣れておく訓練が大切です。



盛り付け

ボランティアグループ「柏町隣人会」のご紹介

特養やDHで使われている清拭がどのように作られているか、ご存じない方もいらっしゃるかと思います。

1反分がグルグルと繋がって巻かれた長い晒が、5反分まとまってキートスに納入されます。それを使い易い決まった長さに1枚1枚切っていきます。これも結構大変な作業になります。それから縫いの作業が始まります。

水曜日の縫い物クラブのボランティアさんも、特養の職員からの縫い物の依頼の少ない時に縫って下さり、そして又柏町団地のボランティアグループの方々が、ご自宅で清拭を縫って下さっています。「柏町隣人会」としてもう10年以上活躍して下さっています。

「柏町隣人会」のボランティアさん達は、大体1か月に1度、代表の谷山喜代子さんがキートスに来て下さり、晒を受け取って、ご自宅で1枚1枚カットしてからグループの皆さんへ配り、グループの皆さん方は、其々のご自宅で縫って下さっています。縫い上がった清拭を、谷山さんがまとめてキートスへ持って来て下さいます。

2冊の同じ記入ノートを双方で持って、谷山さんがおいでになった時に、お渡しした晒の反数と縫い上がった持って来て下さった清拭の枚数を記入して、受渡しをしています。

→
グループのメンバーの皆さんが、各ご家庭で縫って下さっています。



→
晒を定規で測り、同じ長さに切り揃えていきます。



↑
受渡し
ノート



七夕飾り

デイホームのご利用者の皆さんと職員で、キートスと至誠柏ケアセンターの分8本の笹を飾り付けてくれました。楽しそうに飾り付けされる方、ご覧になっている方など、季節感あふれる光景です。

